れんごうさが

No.190
2023年5月

安心社会へ 新たなチャレンジ
～すべての働く仲間とともに「必ずそばにいる存在」へ～

RENGO SAGA

発　行 日本労働組合総連合会・佐賀県連合会
発行人 松尾和寿　　編集者 高祖和彦

〒840-0804 佐賀市神野東4-7-3 TEL0952-33-3705 FAX0952-33-2805

第94回佐賀県中央メーデー

連合佐賀は4月29日（土・祝）、雨天のため室内に変更し、アバンセ第1研修室にて第94回佐賀県中央メーデーを開催しました。

はじめに東部地域協議会梅田副議長により開会宣言を行い、その後、草場会長が主催者代表挨拶を行いました。

来賓挨拶は、南里隆佐賀県副知事、坂井英隆佐賀市長、原口一博衆議院議員の3名の方から挨拶いただきました。

△草場会長挨拶

△南里隆佐賀県副知事挨拶

△坂井英隆佐賀市長挨拶

△原口一博衆議院議員挨拶

△草場会長団結ガンバロー

△女性委員会でフードドライブを実施しました

△おたのしみ抽選会の様子

各地区メーデーの開催模様

◆有田地区

◆唐津・東松浦・伊万里地区

◆鳥栖・三養基地区

◆武雄・杵島・多久・小城・鹿島・藤津地区

第94回佐賀県内メーデー実績《参加者総数 / 1,631名》

地協	地区・地域	日時	場所	参加者数
北部	有田	4月27日(木)　18時00分	有田町生涯学習センター	97名
	唐津・東松浦・伊万里	4月29日(土・祝) 10時30分	伊万里市民センター	315名
東部	鳥栖・三養基	4月29日(土・祝)　9時30分	鳥栖市民文化会館	346名
	佐賀県中央・佐賀	4月29日(土・祝) 10時00分	アバンセ第1研修室	152名
南部	武雄・杵島・多久・小城・鹿島・藤津	4月29日(土・祝) 10時00分	武雄市文化会館	721名

「連合　緊急アクション」街宣行動

連合佐賀は、2023春闘の重要性・賃上げに向けた連合の考え方等を世論に訴えるとともに賃上げの社会的機運を高めるための街宣行動を、2023年3月8日（水）、3月17日（金）、3月29日（水）に佐賀駅南口ひろばにて実施しました。また、今回の街宣行動については、連合佐賀議員懇談会の議員も参加し、議員の立場から政策課題に対する自治体の取り組みや政治の重要性等についてもあわせて世論喚起を行いました。

なお、3月17日（金）は、連合佐賀青年委員会・女性委員会が中心となり、若年層・女性の立場から、現在の物価高や生活困窮者に対する支援の必要性等について訴える街宣行動を実施しました。

連合佐賀女性委員会　　3.8国際女性デー・学習会

連合佐賀女性委員会は2023年3月11日（土）、自治労会館大会議室において構成組織より46名参加のもと「3.8国際女性デー・学習会」を開催しました。

冒頭、この日は東日本大震災の発生から12年目の3月11日となり、震災で犠牲となられた全ての方々に対して哀悼の意を表すべく、全員で1分間の黙とうを捧げ、ご冥福をお祈りしました。

〈主催者代表挨拶〉　連合佐賀女性委員会　石隈 由紀子 委員長

国際女性デーのテーマは「今こそChange, Challenge, Movement！～社会のすべての仕組みにジェンダーの視点を」で、この1年間、構成組織や地方連合会でも「ジェンダー平等」が課題として取り入れられることが増え意識も変化してきました。「ジェンダー主流化」は、少しずつですが着実に前進しています。この歩みを止めることなくジェンダー視点を浸透させていきましょう。誰もが、仕事・家庭生活・地域生活・個人の自己啓発など、自ら希望するバランスで活動ができるよう、「ワークライフバランス」を実現し、すべての人が希望する働き方を公平に選択できる社会、多様な個性を認め合いながら、誰もが能力を発揮できる社会を目指し、真のジェンダー平等に向けて、ともに頑張りましょう。

〈連合佐賀代表挨拶〉　連合佐賀　吉田 真也 副会長（ジェンダー平等･多様性推進委員会 委員長）

各国の男女間格差を数値化したジェンダーギャップ指数で、日本は146か国中116位と大変低調です。また日本はＧ７で唯一、性的指向・性自認に関する差別を禁止する法律が制定されていません。3.8中央集会では、性的指向・性自認に関する差別を禁止する法律の早期制定を求める緊急アピールが提案されました。現在、賃上げ・格差是正に向けた春闘交渉の真っ只中ですが、春闘では経済要求のみでなく、ジェンダー平等・多様性推進課題に関する取り組みも展開しなければなりません。男女平等参画の必要性と意義をご理解いただきたいと思います。最後に4月の統一地方選挙においては、連合佐賀の推薦候補者全員の当選となるようご協力をお願いいたします。

〈学習会〉（講演）「現役子育て世代として、女性として、みんなの懸け橋に！」
（講師）佐賀市議会議員　富永 あけみ 氏

活躍女性の講和として、富永あけみ佐賀市議会議員より講演をいただきました。議員となって６年目、『議員になったきっかけ』では、「議員にならないか」と誘いがあったからではありますが、教育や出産など、これまで自らが経験してきた、いくつかの思いが重なり、議員になられたということでした。また「ワークライフバランス」では、思春期の息子さんとの親子の葛藤などの話もされました。

現役で子育てをしながら女性議員として活躍されている富永議員の、「皆さまの声をしっかりと市政に届けてまいります！」という、熱い思いを聞くことができました。

〈リフレッシュ講座〉

（講演）「モヤっとした心を、ふわっとする方法」～ポジティブスイッチを見つけよう！～

（講師）眞名子 知世 氏

モヤモヤして苦しくなったとき『 私 』はどんな表情をしている？ 心理学では泣くから悲しくなるし、笑うから楽しくなるという考え方があるといいます。

「モヤモヤ ＝ 感情」「表情 ＝ 行動」つまり、【行動】によって【感情】が変化する。　まずは、自身の「気分が上がる」ことを書き出し、その中で共通する【感情】を見つける。＝「**ポジティブスイッチ」を見つけよう**

例）これをすると・・・楽しい、嬉しい、スッキリする、癒されるなど。

○なぜポジティブスイッチなのか？【 スイッチ＝ONとOFF 】に意味がある。

人間の心は想像以上に繊細。スイッチが入りっぱなしのずっとポジティブなままでは、知らないうちに壊れてしまうかもしれない。だからネガティブな気持ちになった時は「メンテナンス中かな～」と思って、のんびりして自分に優しくしてあげてください。そしてネガティブな気持ちに飽きたら、ポジティブスイッチを自分で押して♪ 自分で自分の心をコントロールしてリラックスした毎日を過ごしましょう。

とワークを入れながら、講演いただきました。

△国際女性デーのシンボル、「バラ」のソープフラワーを持ち、参加者全員で記念撮影

佐賀県・佐賀労働局・県経営者5団体への要請行動

2023春季生活闘争の取り組みの一環として、3月13日（月）に、佐賀県・佐賀労働局・県経営者協会・県商工会連合会・県中小企業団体中央会・県中小企業家同友会、県商工会議所連合会に対し、要請行動を実施しました。

1. 佐賀県への要請概要

「春闘要請書」と当時に「生活困窮者支援に関する緊急要請」を提出しました。その後「経済・産業政策と雇用政策の一体的推進と地域活性化への支援強化」をテーマに、県から「DX・EX支援」や「人材育成支援」などの説明を受け意見交換を行いました。また連合佐賀からは、サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正分配や適切な価格転嫁の必要性とともに「パートナーシップ構築宣言」の働きかけを求めました。

△佐賀県寺島産業労働部長への要請書手交

2. 佐賀労働局への要請概要

「労働者及び事業主への財政支援と相談体制の強化」や「障がい者雇用の促進と雇用の安定に向けて」をテーマに、労働局から、「特例措置の雇調金終了への周知について」や「有効求人倍率などの雇用情勢」、「障がい者雇用支援」などの説明を受け意見交換を行いました。連合佐賀からは2023春闘における賃金引上げに対する期待とともに、価格転嫁の必要性についても理解を求めました。

△重河佐賀労働局長への要請書手交

3. 経営者5団体への要請概要

「賃金引上げについて」をテーマに、大多数を占める中小企業は、適切な価格転嫁や、働き方も含めた「取引の適正化」が進んでいないという問題にも触れ、意見交換を行いました。各団体から賃上げにおいて、中小企業でも濃淡があり厳しい企業は、金融支援の資金繰りで何とかやっているが、人の流動や人手不足を危惧しているということなど、情勢について共有をしました。

△県商工会連合会と意見交換

▽2023.3.14　佐賀新聞

賃上げへ官民スクラムを

連合佐賀 県や経営団体へ要請

記録的な物価高を背景に全国的に賃上げ機運が高まる中、連合佐賀（草場義樹会長）は13日、春闘の一環で佐賀県と佐賀労働局、県商工会議所連合会など経営5団体に、要請書を提出した。月額1万3500円以上の賃上げや適正な価格転嫁の徹底、困窮者への支援強化など、官民挙げた取り組みの強化を求めている。

要請書では「エネルギーや原材料価格の高騰が、新型コロナウイルスで疲弊する国民生活に追い打ちをかけている」と指摘し、積極的な人への投資や、中小企業のデジタル化促進、待機児童解消など6分野23項目を盛り込んだ。

佐賀市の県市町会館であった県との意見交換では、草場会長が「今春闘では大手が大幅に賃上げするという報道があっているが、県内は中小企業が多く、その影響がどこまで来るか案じている。行政や経営団体とも連携し、経済の好循環につなげたい」と足並みをそろえた取り組みを求めた。

県産業労働部の寺島克敏部長は「給料が上がらないと経済全体にとって良くない」と応じた。来年度の県の補助金事業に関し、賃上げをしたり、下請けいじめを防ぎ取引適正化に努めるなど「パートナーシップ構築宣言」をしたりした企業に、採択審査で加点する仕組みを導入すべく庁内で検討していることを紹介した。（大橋諒）

春闘の一環で実施した佐賀県との意見交換であいさつする連合佐賀の草場義樹会長（奥側の列右から2人目）＝佐賀市の県市町会館

編集後記

佐賀県内の2023春闘は、中小組合の奮闘により100人未満規模で大きな結果が出ている。

全体的にも賃上げの流れが広がっており、この流れをいかにして来春闘に繋げるかが課題となりそうだ。

まだまだ、取り組みの真っ只中という組織もあるので、賃上げの流れにのって取り組んでいこう！（K）